

太田道灌雄飛錄

壹

L289
才



一 成氏上杉と和ら軍并成氏と上杉より京都へ進軍の事
附リ 武州府中分限中軍の事

一 常州小栗落城成氏下野國宇都宮に城を攻むる事

一 系部より成氏征討とて今川範忠陸倉へ奔向の事
并成氏陸倉を退去軍兵亦乱妨の事

卷之三

一 千葉茂城流直父子生害の事并千葉二流と和らむる事

一 大田持資家督相續扇ヶ谷を補佐する事

一 大田持資武州豊嶋郡に城を築く事并五山の學者待文家や頼朝の事
附リ 河越の城を授けむる事

一 東の常縁京都の命によりて下総國へ下る事并馬加落城の事

附リ 東國の將士亦蜂起の事

一 足利政知東國の主として下向の事

卷之四

一 天正二の月双び野より附り上杉頭房に十子ゆて卒あむる事

一 大田道灌上洛の事附り美政公へ謁見并勅答詠奇の事

一 成氏長尾昌賢と武州今井軍の事
附リ 結城成朝武勇の事

一 成氏長尾昌賢と武州六郷ゆて再び軍の事
附リ 小机彈正左衛門の事

一 古河方政知と伊豆國三島ゆて合戦の事
附リ 古河方敗軍の事

- 一 長尾昌賢古河の城と為り附り成氏千葉へ退去の事
- 一 長尾景春逆心附り左田道灌異見の事
- 一 道灌あ上杉子景春謀殺を勸む附り景春謀叛の事

卷之五

- 一 景春同意の者蜂起附り道灌の城を攻めしむ
- 一 豊嶋重員由所方へ属し附り道灌武州浅茅ヶ原軍の事
- 一 道灌武州江古田軍附り敵兵敗軍の事
- 一 景春上杉勢と武州用土原軍附り道灌謀景春を破る
- 一 長尾景春由所方へ降参の事
- 一 あ上杉景春北武茂對陣附り成氏上杉と和平の事
- 一 道灌武州小机軍附り景春敗軍の事

- 一 道灌相州奥三保軍附り海老名本間討死の事
- 一 道灌東武巡見并小日向金剛寺市谷八幡宮の事
- 附り山吹の里の事

卷之六

- 一 大森伊豆守上杉定正を叛く附り相州平塚軍の事
- 一 成氏あ上杉と和平の事附り成氏古河へ帰城の事
- 一 原胤繁定正を背く并あ上杉不和の事
- 附り道灌鴻の臺出張胤繁村死雁南落珠の事
- 一 西ふ葉下総を争ふ并道灌再び鵠の某土張孝胤敗軍の事
- 一 道灌下総臼井の城を攻む并左田圖忠助討死臼井落珠の事
- 一 定正が近臣道灌を諷し并道灌扇が人出仕の事

一 上杉政定あさぎまささだの奸計けんけいに依よて田道灌たみちかん拒州こくしゅう糟屋ぞうやを討死うちころの事
 惣目録終

太田道灌雄飛録卷之一

目録

- 一 武家治乱の事ぶけあやまちの事
- 一 足利持氏あしかがもちうじ滅亡めつぼう並な結城義兵むすきぎへいの事事
 附 成氏なりうじ関東くわんとうの管領くわんりやうとななる事事
- 一 管領上杉くわんりやうのうえすぎ家いえの事事並な内管領うちくわんりやう太田長尾おのゑながおの事事
- 一 太田鶴子おのゑつるこ代元しろもと誕生たんじやうの事事並な豊立人とよたてびとにた務たづねねらられる事事

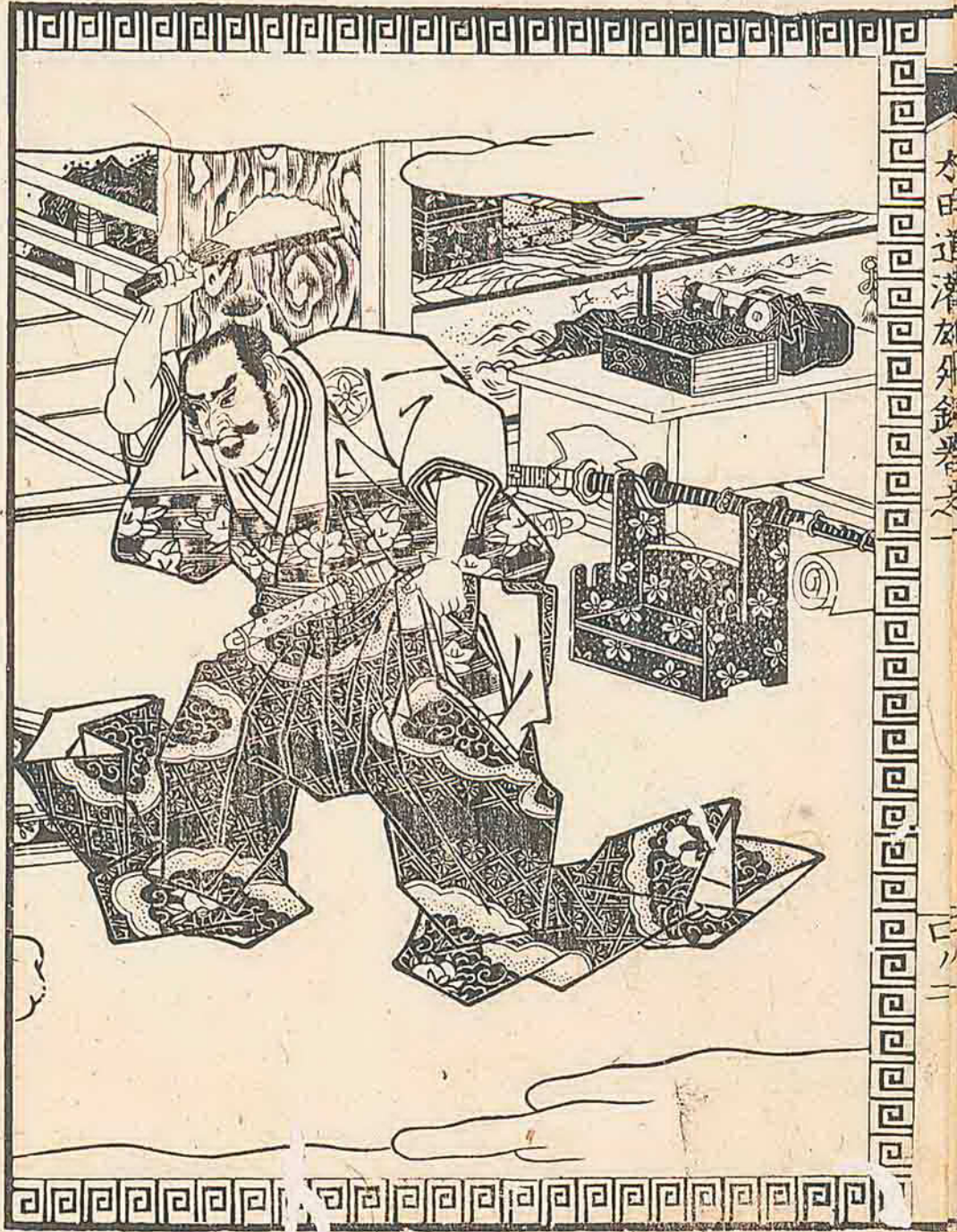


大田資清



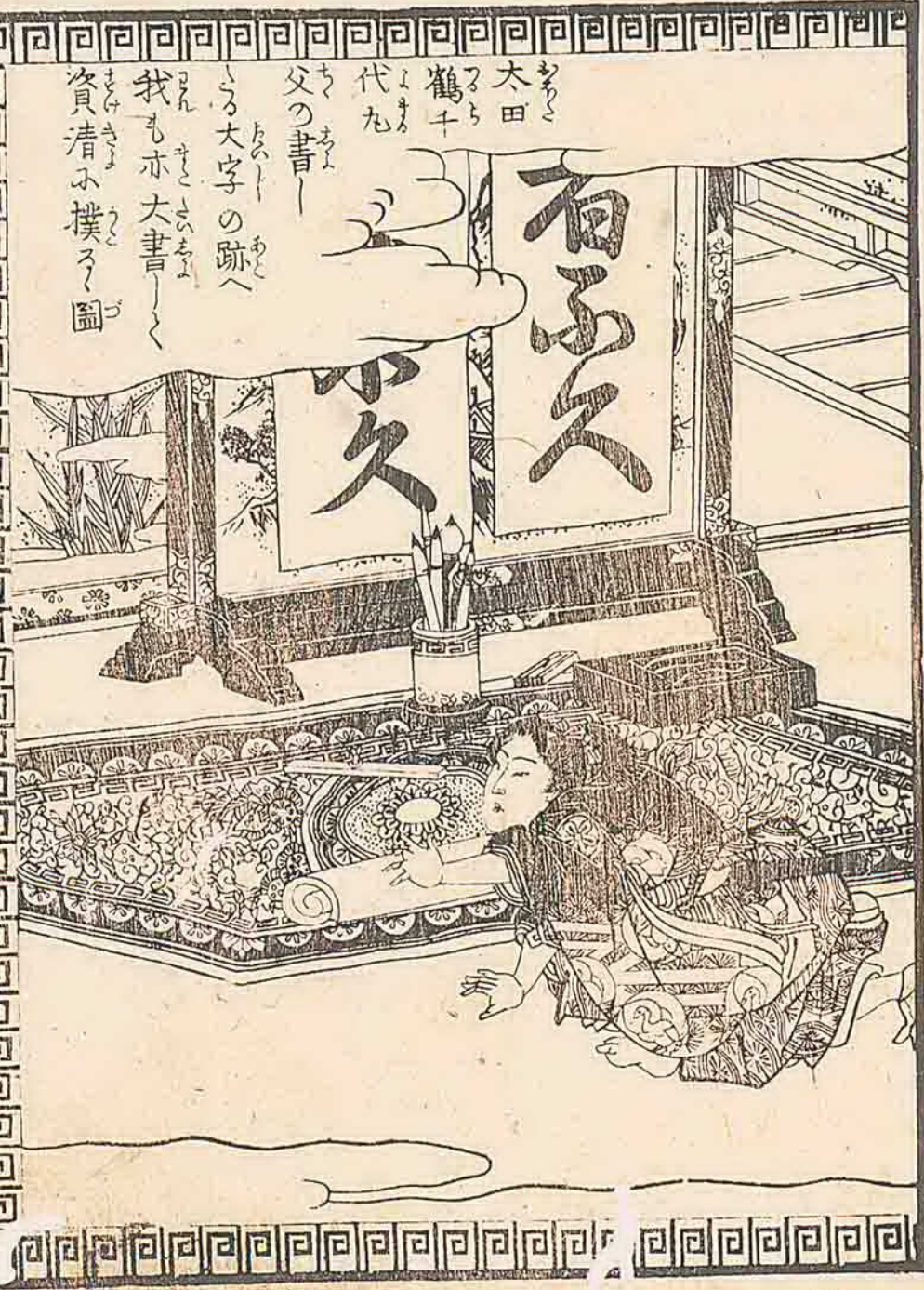
大田資清
 清其子
 鶴千代
 九小曲直
 の理と教訓
 と其智
 と感ざるの
 圖

大田鶴千代丸



大田 鶴千代丸
父の書
る大字の跡へ
我も亦大書
資清小撲る圖

百
久





賤の童女
山吹乃花と
拵て雨具

大田道潜



持資高田小獵
急雨まわひ
農家小とて
雨具と借る圖

大田道潜

三〇三

威権を擅め、其女をとりて當今高倉院の中宮に備へ、百
 寮をまやく其氏族より任じ、一家の俸禄二十餘國に及ぶ
 人皆肩を擧げ、顔色あつむるに至る。朝法皇と鳥羽の離宮に
 ろめをとり、其暴無譬つるゆゑあり。女時めありて、源氏の義朝の
 叛逆より絶つるがごとく。諸國の國姓多しとて、或は戈器あるも
 兵乏しくうちあはる事あり。或は平家の勢も衰へて空しく憤然
 せらえて、荏苒として過るもの少くも、女故摂津守頼光五代の
 源三位頼政入道深く源氏の衰微を歎き、家より法皇の皇子高倉の
 宮に仁親王を勅りたり。平氏と亡し、世に安んずるなり。國々の源
 氏も謀り合せて、義兵と擡んとせしむるも、事多し發覺して宮に

始りたり。其身も若く一族等皆悉く空しくあつて亡び、
 清盛女次子國之の源氏等と根を断り葉を枯さんと。其後後
 こを以て頼朝の伊豆より起り、義仲の本曾より出く、竟平氏を
 族滅し源氏一統をその上法皇より頼朝へ惣追補使の勅許をな
 下さ。是より王道衰えて、再は古く復るもあく、公家武家と二つ
 ことごとく権威を以て武家に移り、其後八十二代後鳥羽院の
 事を憤りたり。宇内院りて、朝廷の有るあり給ふんと、嚴慮
 と廻らざる。鎌倉院亡さんと、法皇の御代ありきれども、事就らざり、却
 順徳院後鳥羽院土御門院の三帝代遠き國々へ遷幸あり、あり
 せり。武威を以て盛んに行き、鎌倉も頼朝より三世、其二十四年
 めも断絶し、將軍の攝政の公達へあつても頼朝より、二

幸ゆくと事止して天子へ奏聞成とけ。親王方と申すは、
 將軍と作さしめてとくども。天下の政勢を北條が方より出で九代
 が同百十四年日本を掌握も九代相模入道宗隆が執權のとき
 九十五代後醍醐天皇の首と思召はせ給ひて復古の御旨あり
 みるが、是も事減とて、
 徳政國へうつさし終ひしとき、此時
 天地革命の期めやありきん皇子大塔の宮と始藤原藤房新田義貞
 足利高氏楠正成赤松圓心名和長年等乃人。朝廷へ忠義をばし、
 内をく、跋扈す。北條と唯二十四日が同ふうち滅し。宸襟をせり、
 聖運を用き終ひしときも、上殿慮深く申して、
 奏と納き女謁せりれと賞罰明らるる。功臣恨み、
 之と將又威と争ひ足利も氏叛逆しとて、武士多く渠を屬し官軍あり

義貞正成等の智勇の將帥ありしときも、君暗くして直言は用ひ
 せらるる。政事正しかりしは、後小朝田楠と始りてくを戦ひて、
 天下又も氏小喬とて武家より飯とをりしときも、高氏りて、
 得る天下をなれば、一統の後も動乱結ぶるとき、其身直義と不
 あり。数度戦ひよ及び或は執事高師直小海とて、君臣辨と事人
 又も氏の子義経も柔弱ありて山名時氏に長長。細川清氏等敵と
 あり。もて國持乃大名者後目代とて、三世義満も大志あり。世
 臣細川頼之とて、是を補佐し。室内を統御せしときも、義満の潛り、
 つゝありあり。世義教の赤松満祐とて、我され八世義政の附の少時
 世の中も、義満の政風流水の精神をいせ。政事へも、後領を
 らち任せらるる。細川勝元山名宗全と互に威をありし。日本

武士將軍の命を用ひて。おのづかほく此あめりよと。應仁元年丁亥
 ころ。文明九年丁酉まぐく十一年が間合戦止むと。さうして。國々も
 各々。細川方と相持ち。これより世々大亂となりて。水く我國とぞ。さ
 らる。備又関東も。さ。氏上洛の後。共二男基氏よりて。東國の管領
 と。一孫念より。一孫宮より。餘類新田の氏族と退治。下り。降る。のの
 殺して。新領と。の。之。従る。の。討て。共。相。成。断。つ。さ。ふ。り。て。さ。ふ。平。地。と。
 津。靜。澄。を。基。氏。二。八。歳。め。く。貞。治。六。年。に。月。二。六。日。ふ。卒。去。り。其。子。氏
 滿。を。子。滿。兼。を。子。持。氏。相。繼。ぐ。孫。念。小。寺。一。東。山。と。名。を。稱。す。は。つ。ふ。い。に。一。
 ち。又。持。お。軍。の。時。應。永。二。十。二。年。丙。申。孫。念。持。氏。の。執。権。上。秋。氏。憲。入。道。
 禪。秀。持。氏。乃。別。腹。の。兄。持。仲。と。さ。り。て。丸。と。發。し。持。氏。と。追。ひ。ぬ。く。一。旦。と。
 利。を。得。る。と。い。ふ。も。多。分。と。り。加。勢。ま。り。く。禪。秀。敗。北。一。類。と。あ。く。滅。亡。

と。よりて持氏再孫念小飯了て。元のごう、東國の成敗と司ぐと。さ。り。

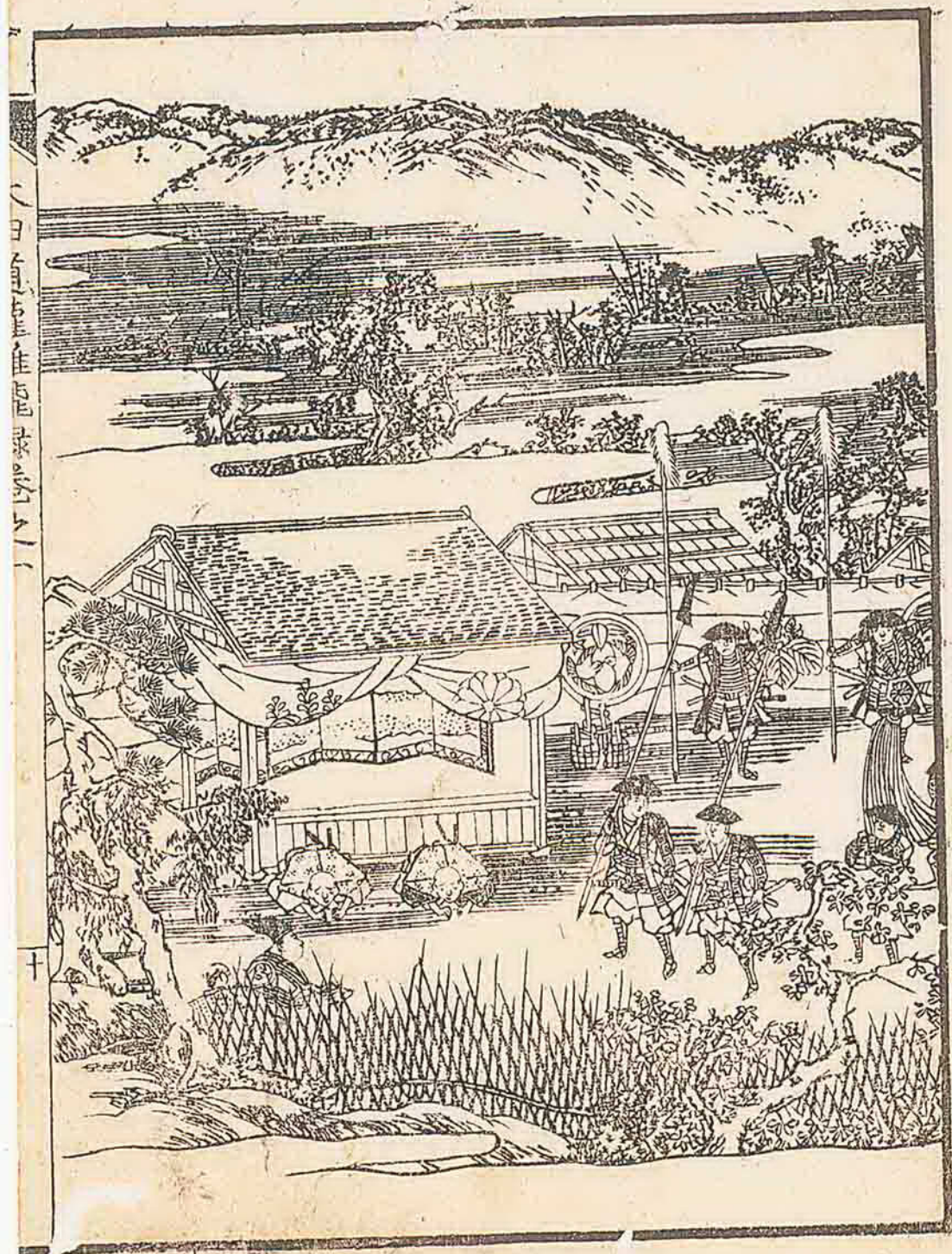
○持氏没落。孫小結依義兵の事。附り成氏東國の御前とあり

ま。ゆ。ゆ。の。事。

扱も足利左兵衛督持氏の禪秀滅亡の後、其威名より。内よりて。八州の
 名家。ま。り。い。ふ。み。よ。を。い。武。藏。の。七。黨。坂。東。の。八。平。氏。紀。清。お。黨。の。者。す。と。も。
 其。指。揮。不。從。ひ。て。任。重。く。職。尊。き。ふ。あ。ち。も。心。不。飽。を。う。く。さ。や。あ。り。き。ん。の。い。ふ。も
 一。く。系。那。の。お。軍。が。滅。亡。し。東。西。を。併。せ。く。我。一。人。お。軍。と。成。ら。ん。と。い。ひ
 居。ら。し。む。と。い。ふ。心。中。小。秘。と。て。身。ち。り。こ。人。め。も。願。ひ。の。り。て。さ。り。以。待。て。と。
 あ。り。の。系。抑。け。濫。觴。を。ま。り。お。た。の。お。軍。を。量。り。さ。う。十。九。歳。あ。て。應。
 永。三。十。二。年。乙。巳。二。月。二。十。七。日。薨。去。り。の。後。ま。り。と。も。あ。り。の。事。は。法。嗣。乃。事
 へ。定。め。く。持。氏。へ。宣。下。あ。ら。ん。と。樂。し。み。付。め。り。と。い。ふ。事。は。相。違。し。と。い。ひ

源氏滅さんとしるべし彼とひ此とひは方の世言くくつゆたしと我が口へ
 非なりんれかふるうまき捨おくべき小あつてなむるべき永享十年戊午八月十六日
 一色宮内少輔忠兼同刑部少輔時宗と大番頼平の之將とて白井おりて
 三つ向うもお氏めも翌十六日武州多摩郡那府中ふおる。安守小陣
 となく味方の勢は集りらる。先づ法橋十郎氏朝千葉女流同修理大夫
 流将同陸奥守康胤佐行と入道本覚同刑部少輔義俊小山守野宮朝
 蓮池安藝守川紙治房が捕ら下二千餘騎少くも陣。白井の城をかみ
 攻むげと死長尾周幡守景宗が方より始終をあか言ふ。山下初め
 免も角もたつらる。平馬とて上せり。とてより茶猪方より乃
 後連ありし憲実がとてひ神如あり。さうけ序はお氏を亡きべしとて
 義教らも兼く茶團兵系流の由りおんと肉くおわしるれしとて

あまご急ぎ行くと向ひらる。諸人將へ今日も中あも故陣森が
 子息と中務を捕ら房共身治が捕教朝と大將とて天下の亂を鎮
 と。天子より金銀少く日月とある。錦の御旗とて將軍家より
 法政乃旗とぞしとる。けあ人を父乃入道が謀叛とて上あて。將
 軍家よりはるゆゑ義教もその真心と稱し。今更の付もあへ令せ
 らる。其外相従へんとあへ。今川上鑑女範忠朝倉小を教意。小の系
 信濃守政康。武田大膳とて信重。佐木治房が捕多明山名中務を捕。瀬貴大
 河原長門守川崎肥前守。鞍馬美保。曾我平二存。門尉等。於今二万餘騎。
 同年十月三日。系流氏もたつらる。又鎌倉城へ白井の城とて一掃す
 攻落らんと勵めども。城を堅く守りて出合のぞ。さう小月日ある處
 小。あつらる。入軍し向とてり。山ははせゆるとも。法橋佐行千葉



中々多
 足利成氏
 関東後領
 となりし
 鎮倉
 下向
 の図

大田道灌
 大田道灌
 大田道灌

攻り入りしあり。有合人々新田の一族。その外佐女。金沢安西等。日ごとく
十人ぞり。防ぎ執りその向ふ持氏の嫡子義久の崩が谷人落り入と。二浦が
兵士ども是と擗とさし。世より長尾尾張入道芳傳へ進進
久芳傳の縁念を守らん。歩むる途中あり。行くも持氏より遠ひ
まゝ。憲實といわ平あり。も。宗政の由不知り。とて。金沢の孫名
寺へ移し。と。校。も。葉大石等。と。保。と。固。持氏ハ。割。あり。法
名。道。繼。と。改。え。り。時。は。四。十。一。歳。あり。か。り。後。も。京。都。義。教。公。と。り
旨。の。り。と。竟。ふ。は。省。免。あり。永。享。十。年。二。月。十。日。持。氏。あ。り。ひ。小。嫡。子。義
久。と。も。亦。生。害。あり。其。後。上。校。憲。實。も。隱。遁。と。て。割。裂。し。伊。豆。國。清
寺。ぬ。岡。居。も。世。丸。の。時。持。氏。の。幼。息。春。王。安。王。永。壽。王。乃。三。人。の。お。安。守。り
居。り。と。里。見。修。理。亮。一。色。伊。与。右。衛。門。今。川。式。部。丞。桃。井。刑。部。少。輔。等

公と争ひ三人の若君とお伴ひ。山鏡と小落り。ま。ま。安。王。と。下。野。國。日
光。山。之。落。り。お。ま。ま。信。列。一。落。り。と。一。色。等。の。人。ら。ひ。國。東
と。多。留。え。んと。便。宜。乃。大。名。然。か。ら。り。し。結。成。中。勢。少。輔。氏。朝。二。心。か。く。流
味。方。と。改。永。享。十。二。年。庚。申。五。月。下。旬。お。文。と。の。勢。と。集。る。小。氏。朝。が。催
優。小。老。と。一。面。く。め。り。先。下。野。小。新。田。二。部。義。秋。又。子。回。中。多。勢。を。依。せ
小。老。有。綱。國。府。美。濃。守。高。階。民。部。丞。と。嫁。修。理。亮。堀。井。が。被。官。野。田。が
希。等。是。小。老。と。及。送。と。企。く。結。成。の。前。の。城。は。楯。籠。る。け。音。系。於。人
進。進。ふ。り。て。答。へ。上。校。義。庫。政。清。方。同。修。理。大。主。持。朝。等。み。方。勢。と。一。率。と。て
結。成。へ。索。向。と。系。於。し。り。の。上。校。教。朝。涉。彼。の。旗。と。り。三。万。餘。騎。と。北。陸
道。より。下。向。結。成。の。城。を。攻。む。と。り。と。も。博。志。と。思。長。を。重。ん。と。り。防。戦
と。り。お。ま。ま。氏。朝。が。弟。小。山。老。が。浦。氏。義。敵。小。備。と。色。と。同。り。思。し。城。と

あり。かくて永壽王后下向ふ就き。上牧房定ハ戦後上野に境へ向ふ
 政事と補佐を。其二男顯定ハ上野府中へ去り所馳をせり。同八月
 廿七日ハ白井と出立鎌倉へ移る。あつて。中へ入る。上牧憲実世に
 鎌倉を在る。上野のいふ。あつて。支度。熟思素を。上野に
 石。持氏。足守。子。息。三人。す。我。為。夫。世。の。つ。必。定。出。心。の。底。小。根
 み。結。ひ。ぬ。ん。身。の。為。子。孫。の。ま。あ。大。事。あり。と。同。廿六日の。戦。つ。三人。を
 召。連。て。願。國。伊。豆。へ。落。り。き。是。より。出。家。して。行。方。知。く。ま。た。う。り。あり。あ。そ
 中。武。藏。乃。府。中。村。園。に。還。向。あり。同。九月。九日。小。鎌。倉。へ。入。澤。智。寺。小。沙。羅
 あり。佛。所。造。造。營。あり。今。同。小。京。都。の。古。下。知。と。て。憲。実。が。所。造。ゆ。り。所
 あり。ま。ま。と。て。父。子。二人。とも。出。家。し。憲。實。を。長。棟。長。子。ハ。德。丹。次。ハ。圓。嚴
 と。号。し。西。國。へ。落。り。き。末。子。総。持。丸。ハ。初。少。由。多。伊。豆。の。山。家。小。隠。し。居。る。と。

老は尋ねたり。系於ナリ。初推といども老は尋補け。管領
 一族の者なく。後。系於の下。知。信。け。お。勢。む。べき。旨。命。ず。ふ。
 同。年。十。月。三。日。御。所。出。來。移。徒。あり。永。壽。王。后。ゆ。り。先。例。の。ごと。く。系。於
 と。り。一。字。次。下。され。元。服。あり。と。左。馬。頭。成。氏。と。や。も。就。是。也。も。同。一。
 元。根。と。く。上。牧。右。京。亮。憲。忠。と。号。し。ら。ふ。又。故。持。氏。の。為。し。結。城。小。鎌
 倉。に。付。死。す。里。見。刑。部。少。輔。家。基。の。子。左。馬。助。義。実。の。房。次。り。行。て
 也。上。総。守。國。公。切。ま。と。く。鎌。倉。へ。入。る。

按。む。小。里。見。の。新。田。大。炊。助。義。重。の。三。男。里。見。を。承。義。後。十。代。の。後
 胤。を。刑。部。少。輔。家。基。と。し。初。年。辛。酉。四。月。結。城。に。移。り。付。死
 也。其。子。又。承。義。実。上。列。の。所。地。を。継。承。し。房。次。り。移。り。き。上。野。に
 清。澄。の。寺。院。小。沙。羅。に。時。常。に。宣。講。し。む。り。し。小。田。國。を。治。理。の

昔頼朝松山の軍ふらち肩けあふありて房乃入道と。此の流し、
浦邊へ渡りしに。苗圃の武士。安西二帝系。金藤。藤原光房。九
む。信房。東條。七帝。秋別。第一番。又。味方。と。思志を。励
らる。と。東國。平。坊。の。後。安房。國。を。バ。世。に。賜。り。ま。り。代。り。女
親。と。睦。して。平。女。と。結。ぶ。よ。又。帝。系。安。西。二。帝。に。小。孫。を
食。ひ。め。り。元。來。將。帥。の。才。を。め。り。け。頃。に。戦。國。の。習。ひ。を。四。家。各
領。地。を。ゆ。り。合。戦。止。む。と。ま。り。又。實。り。も。大。ね。と。あり。て。公。武
指。揮。し。攻。む。必。ず。り。我。へ。か。ま。り。勝。つ。女。も。無。難。氣。を。抽。り
し。が。病。死。さ。り。も。在。信。門。依。依。又。不。方。ら。ぬ。勇。お。あ。り。又。忠。勤。と
そ。と。そ。と。終。り。も。子。上。野。女。系。道。守。公。孫。に。て。早。世。と。これ。り。り
と。又。女。系。帝。系。安。西。二。帝。と。儀。子。受。り。た。馬。助。と。号。し。是。ハ。明。應。の

始たり。又。智。謀。精。き。之。別。の。勇。お。ゆ。え。新。く。の。戦。ひ。不。勝。も
ゆ。應。に。事。に。か。ふ。る。と。終。り。も。子。上。野。女。系。道。守。公。孫。に。て。早。世。と。これ。り。り
と。又。女。系。帝。系。安。西。二。帝。と。儀。子。受。り。た。馬。助。と。号。し。是。ハ。明。應。の
日。の。小。女。の。系。考。し。威。徳。を。以。て。悪。く。初。と。義。考。し。滅。さん。と
す。又。豊。大。不。情。り。忽。と。叛。ひ。ぬ。ま。り。年。十。月。安。西。が。敵。を。襲。ひ
即。時。不。付。滅。し。國。中。に。押。入。り。橋。村。の。城。を。か。ま。り。安。房。源。氏。と。稱。し
一。幡。の。將。と。あり。隣。國。に。侵。食。せ。ん。と。も。其。勢。に。怯。え。な。り。さ。且。こ。を
ま。か。き。え。奉。り。り。ゆ。應。に。奉。り。り。ゆ。年。の。後。たり。成。氏。源。會。の
移。法。に。宝。徳。え。ま。り。ぬ。其。間。修。り。九。年。あり。て。義。實。の。子。安
西。の。子。な。り。時。々。と。事。不。遠。く。あ。り
又。結。縁。氏。朝。が。知。息。士。帝。重。朝。へ。又。付。死。の。時。に。つ。ら。ふ。二。系。あり。し。を
家。に。多。賀。谷。と。二。帝。懐。ふ。と。出。陣。入。落。り。き。佐。所。家。小。孫。を。一。は

つりか。時分得く結成へぬ。四臣と名付。近郷と歩徒。鎌倉へよ
上あ。多き成代。表境糾々。則中務少輔。改めさせ。身近く
るはりれきり。尤も成氏へ。上校憲忠。對して。別後。と。ども。當
時。如。西。い。の。も。彼。父。定。憲。上。せ。さ。さ。さ。子。孫。あ。れ。り。ふ。ら。き
て。る。笑。中。小。又。と。研。ぐ。ん。せ。く。危。き。事。ども。多。かり。き。ま

○上校兩家の事。兼小内管領太田長尾家系乃事

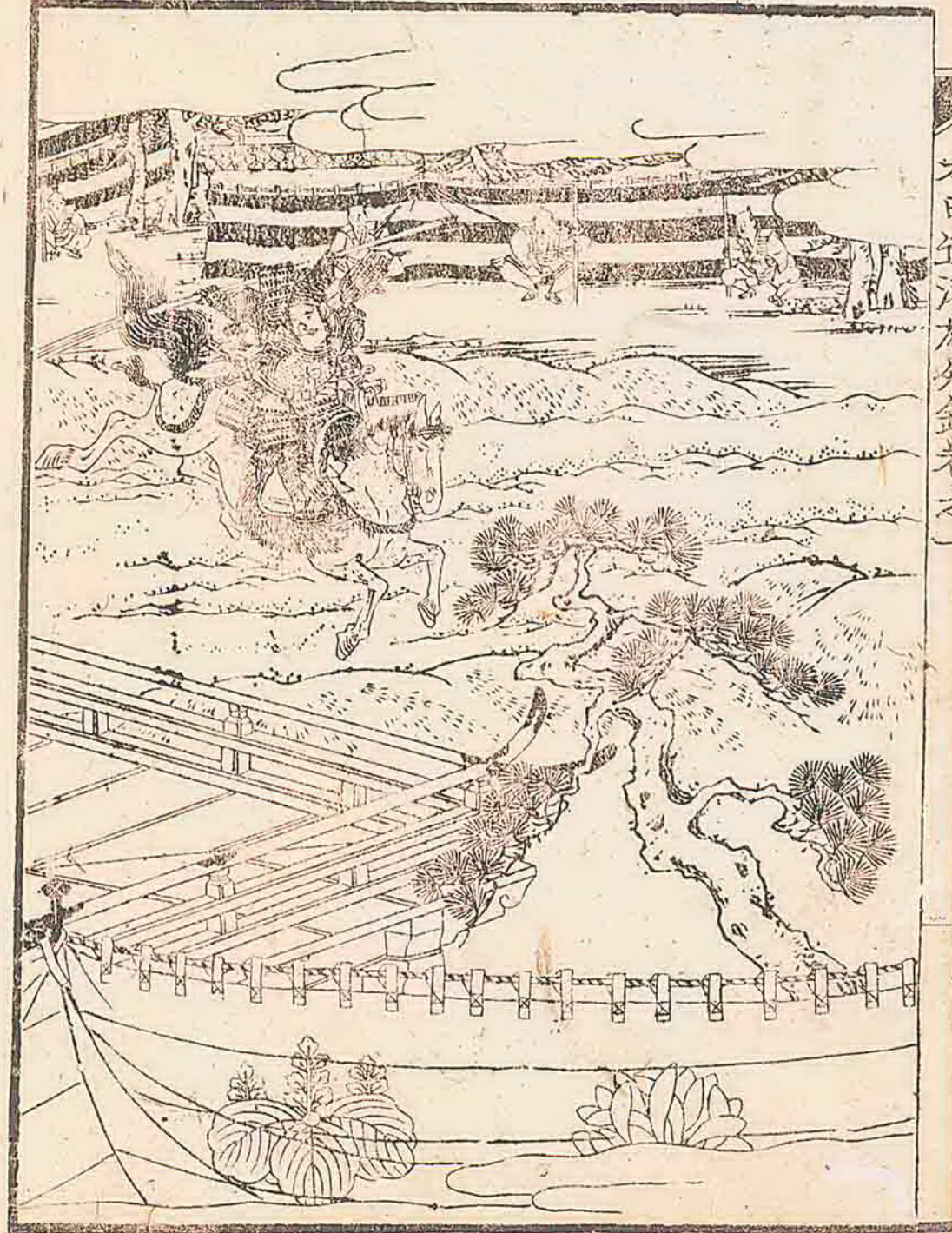
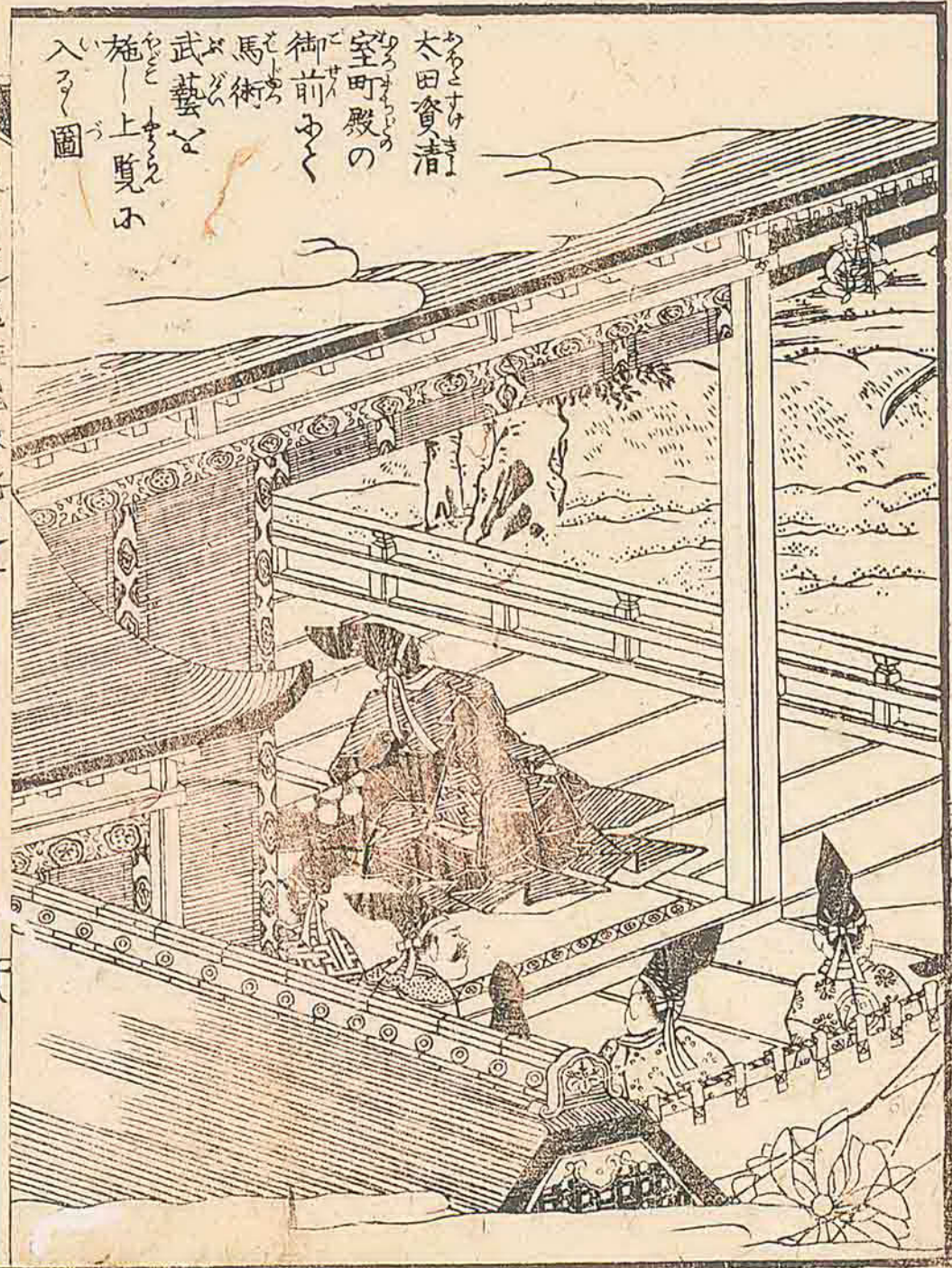
關東の管領上杉家へ。高氏公乃母堂二位。及の舎見。上校。倉庫頭。憲房
入道。道欽。京四條乃軍。高氏公。代。り。行。死。下。り。り。伊。豆。重。能
と。書。子。と。惣。領。と。も。廿。人。執。事。高。氏。藏。守。師。直。と。不。快。少。く。害。甘。る
子。身。定。房。の。室。子。上。校。修。理。亮。憲。藤。曆。應。元。年。より。關。東。の。執。事。を
命。ず。く。と。い。が。こ。も。同。年。三。月。十。日。信。濃。國。へ。討。死。を。憲。藤。一。子

あり。兄ハ幸ね丸。十四歳。分。幸。若。丸。十二歳。め。り。り。石。川
入道。覺。道。相。俣。く。鎌。倉。へ。あ。り。れ。ば。り。氏。公。感。じ。の。い。兄。を。た。馬。助。朝。房
と。号。し。戦。後。信。濃。を。ま。り。い。か。を。中。務。少。輔。朝。房。と。名。け。上。総。と。り。り。
應。永。二。年。二。月。關。東。の。執。事。を。補。す。る。足。大。懸。乃。先。祖。あり。憲。房。の。二。男。
氏。公。を。彌。憲。頭。ハ。山。の。内。乃。祖。たり。ゆ。る。小。憲。頭。ハ。氏。公。を。身。給。小。路。直。義。と
不。和。め。あり。合。戦。の。あ。は。れ。氏。公。の。味。方。せ。り。ぬ。る。氏。公。よ。悪。ま。と。れ。ども。才。智
殊。よ。と。と。て。關。東。に。回。り。ハ。廿。人。の。あ。ら。び。と。い。ふ。と。い。ひ。の。い。の。罪
科。は。免。れ。り。と。い。ふ。事。も。基。氏。少。も。乳。母。子。め。り。指。さ。り。抱。き。育。て。や。り
々。る。同。旁。ゆ。る。と。い。ふ。て。戦。後。安。房。を。り。鎌。倉。乃。後。見。と。い。ふ。子。孫。は。り
山。の。内。と。号。し。世。傳。ハ。氏。公。を。彌。憲。頭。定。管。領。たり。又。房。公。を。早。す。り。入。道。と
同。し。朝。房。の。子。ハ。氏。憲。入。道。禪。秀。あり。保。親。よ。り。て。其。の。子。を。入。道。と。い。ふ。

大慈と稱する絶つ。此もとも禪秀が子どもの中、小持房と教朝のふ
共ぞ。上京へ將軍のあはへたる、故持房又鎌倉の義領と成り、討
教朝の義政と成り、新治の政、東國下向の節、細川勝元がてつ、い
とて執事とあり、一向の政、我死由多小持朝の三男、定政をまひ
とあり、家督とあり、是を鹿が谷とあり、右の有家、山内を名と稱して、兩
管領なる。是もとも山内を所願多くと大身あり。鹿が谷の領地、山内
が内管領、ゆ過ぎ甚しう、いそ。け、時内、後、成、とあり、管領の老は
あ、事と執り、入者、お、山内乃老、長尾、存、門、尉、景、入、道、昌、賢
といふ。是の平氏、あ、桓、武、天皇、と、鎮、守、府、將、軍、良、兼、の、孫、村、岡、五、郎
忠、通、の、末、權、み、早、景、の、代、長、尾、新、の、定、宗、を、後、裔、と、り、又、鹿、が、谷、の、老
馬、の、大、田、備、中、守、資、清、と、り、後、入、道、と、り、道、真、と、り、と、れ、の、源、氏、あ、と

清和天皇五代、攝津守賴光の五代、源三佐頼政あり。此頼政、武勇のこ、
あ、と、お、奇、の、道、も、巧、と、り、一、代、の、縁、歌、昔、く、の、知、も、と、り、あり。
近衛院二條院兩朝、化鳥と射く武名、公揚。主上、感、仰、く、甚、賞
と、り、丹、波、國、入、箇、の、庄、若、狭、國、栗、官、川、を、賜、り、お、政、乃、代、と、り、清、河、射
國、綱、と、り、京、都、中、行、り、禁、中、小、奉、仕、を、侍、乃、主、上、國、綱、の、頼、政、の、玄、孫
あり、と、り、公、卿、召、さ、り、頼、政、を、朝、家、入、忠、義、と、り、一、族、と、り、守、り、お、て
戦、乃、公、遂、げ、殘、り、と、り、亡、び、ぬ、を、憐、み、と、り、山、内、領、地、を、丹、波、國、入、箇、の
庄、と、國、綱、よ、き、あり、と、り、國、綱、を、攝、津、守、資、國、と、り、世人、丹、波、國
大、田、の、庄、に、住、り、と、り、と、り、代、と、り、大、田、と、り、氏、と、り、鎌、倉、惟、康、親、王、の
將、軍、と、り、文、永、年、中、より、相、乃、小、奉、り、と、り、西、院、糟、屋、小、奉、り、と、り、資、清
を、資、國、と、り、代、の、後、あり。

大田資清
 室町殿の
 御前ゆく
 馬術
 武藝と
 施し上覧
 入る圖



大田資清外金巻之

大田資清外金巻之

氣色もたなく。口はひびききとてこれを受く。見ざる者驚歎。口ごとく入事なり。將軍の少も甚良とりのあり。ゆゑに種々の賜あり。つとせ。資清は笑細ととて。て和歌と好む。つとせ。白紙終して。樂とて。其縁を新菟玖波集に入ら。資清武及生紙。一卒の精舎を造立し。総持寺と号す。自らも世にも希毫と稱え。自得軒と名く。武時河越は。紅城の守部。かのう心。敬僧都宗。低法所。等。招き下して。連歌と長行と。世より。河越千句とれり。

○大田鶴千代九紙生の中。年六十。生とて。く。絶せし。奉

永享四年。まよ。ち田資清一。る。紙。役。く。資清。甚。う。う。と。ひ。惣。領。は。男。る。み。紙。得。ら。る。へ。子。孫。秘。傳。の。基。あり。と。別。鶴。千。代。と。名。づ。け。電。震。斜。さ。ら。む。實。は。梅。檀。へ。嫁。ら。る。芳。く。類。似。鳥。の。轍。の中。より。声。決。る。小。徳。あり。と。

三四歳の頃よりして。ううの遊ひも。小児と集めて。兵戯をあり。又ハ城壘の形とつうて。其行ひと。ま。く。將の。名。は。預。る。半。と。あ。ま。と。五六歳の時。容貌雄偉。少く。才。智。あり。小。前。ふ。か。ら。る。言。信。又。正。資。清。と。と。ん。て。人。學。む。事。物。乃。理。小。暗。文。ハ。武。と。用。ゆるの本。ま。り。と。九。歳。の。と。鶴。千。代。と。孫。念。の。建。長。寺。小。上。戸。の。書。と。習。ひ。白。文。と。ま。よ。む。と。持。鶴。千。代。と。と。り。其。明。の。生。笑。ま。と。一。と。ゆ。て。十。と。知。り。ま。り。あ。り。一。願。し。わ。ま。よ。十一。歳。ま。く。ま。り。は。資。清。の。功。め。り。り。と。て。老。筆。と。し。と。も。毎。度。道。と。論。と。持。鶴。千。代。は。紙。と。て。五。山。の。碩。學。精。麟。思。て。稱。し。る。老。感。心。か。り。て。十一。歳。の。ま。り。文。成。ゆ。り。て。父。の。許。へ。か。り。る。資。清。熟。く。賞。て。勇。士。の。文。學。か。り。と。ま。り。事。ハ。胸。く。ま。り。と。ま。り。う。ま。り。は。呼。び。席。と。せ。其。の。ま。り。者。紙。傳。と。て。詩。文。成。を。

驛負成さしむる。頓作ゆて秀白多し其事と信ぜしむる。辨名
 懸河のごく論く。成長日官領の補佐く。駁へく。深く
 其才とをく。是より修きて四の成せむ。二男の圖書筆蹟とら
 世人別業をなす。二の千代田若狭守四の玉田源入希の潮田少羽
 又式部少輔とす。或は只と。大官の修と。是と。四の成と
 考く。崩谷のよけ持朝の資清の嫡子鶴千代か。のごく。聡明
 あり。聞ふ。ほび。早ふ。目見え。せ。小兒。よ。あ。い。て。い。る。金。も。換。り。し。

或時持資ふ向く。内。我。汝。と。見。る。小。客。貌。端。正。め。く。英。氣。凜。然。と。

所謂玉の函のバ人と映照さる。今汝よ。あ。い。て。始。り。て。是。と。見。る。

得る。古人の諺。小。智。秀。く。大。偽。め。り。且。其。智。小。め。く。大。に。得。る。

獨と請ぐる者無し。慎まごんべのめく。今。是。と。物。比。て。汝。と。念。ん。

戸童子直する。く。わ。い。ち。の。曲。ふ。ま。い。り。あ。い。と。能。く。思。ひ。ま。す。

あり。その。持。資。畏。り。て。其。席。を。退。く。資。清。の。事。を。お。し。

中んと見たり。く。ま。へ。沖。ま。ま。て。る。屏。風。と。お。ま。り。て。

美りぬ。さ。う。ま。が。り。世。屋。風。曲。る。ま。い。り。直。す。と。い。は。

宜し。く。と。云。資。清。翹。き。て。止。ま。り。資。清。又。の。向。又。書。く。

驕者不久。く。四。字。と。時。小。張。り。お。ま。り。持。資。を。尋。び。て。

と。向。入。持。資。を。尋。び。て。我。も。又。世。例。の。文。を。以。て。

の。ん。や。と。い。資。清。が。白。汝。が。意。な。れ。が。苦。く。

その。の。の。を。持。く。始。め。よ。よ。が。お。ま。り。

不驕亦不久。書。を。資。清。に。送。り。て。

大田道灌雄飛録卷之一終
のSawano

大田道灌雄飛録卷之一終

